

# AJU愛実

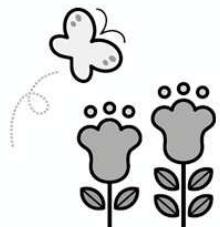
## 第42号 会報

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実  
(大地の家／愛実友だちの家／紙風船)

定価:一部100円

|                           |     |      |
|---------------------------|-----|------|
| 8050問題と愛実の会／島しづ子          | ··· | P1   |
| 地域で暮らすこと～当事者研究の前線から～／戸田真二 | ··· | P2   |
| 大地の家                      | ··· | P3~4 |
| 紙風船                       | ··· | P5~6 |
| 居宅介護事業所あみ                 | ··· | P7   |
| フルート、チェロとピアノの響き ご案内       | ··· | P8   |
| 苦悩を越える楽しさを共につくる／南 寿樹      | ··· | P9   |
| 寄付者名簿                     | ··· | P10  |



### 紙風船・大地の家 それぞれのクリスマス



## 8050問題と愛実の会

理事長 島 しづ子

巷間では深刻な社会問題として8050問題が伝えられています。愛実の会のメンバーご家族もあと十年足らずで親が80歳、子どもが50歳になろうとしています。8050問題はひきこもりを続けた方が50歳に、その親が80歳になって、両者共に生活が困難に陥ってしまう問題で即急に対策が求められています。

この課題を考えながら、愛実の会との共通性を思いました。障がい者の親たちは子どもに障がいがあると知ったとき、「この子の自立生活はいかにして可能か？」と戸惑ったことでしょう。私もそうでした。幸い、かつては行き場所が無く苦労した先輩親子が努力してくれたので、社会的資源も次第に整い、多くの障がい児は幼児期は訓練施設や療育施設に通い、特別支援学級に通い、卒業後は愛実の会のような通所施設に通って過ごしています。基本は自宅からの通いであり、昼間6時間ほどデイケアなどで過ごす以外は、自宅で両親、あるいは父、母の介助によって生活しています。メンバーによっては20数年前からショートステイやホームヘルプを利用されていますが、最近はショートステイやグループホームなどの利用希望者が急増しています。

以前は長生きしないといわれていた重度の障がい者が、医療の発達のおかげばかりでなく、家庭の細やかなケア、通所施設での規則正しい生活をすることで、いのちが守られてきたのだと思われています。愛実の会は地域生活にこだわり、18歳から50歳前後の利用者の方々を日中サポートしています。今後、親による介助が難しくなった時、メンバーの生活をいかにサポートしていくかという時期になりました。福祉業界はいつも人手不足という課題があります。そういう中ですが、知恵を絞って次のステップへと歩みだす時期であることをひしむしと感じるこの頃です。

東浦町にある社会福祉法人愛光園は1965年に制度も何もない中、重度心身障害児の通園施設を開始しました。1978年にはひかりのさとのぞみの家開設。1985年にはまどか開設。その後も住人たちの要望に従ってグループホームをいくつも開設されました。ひとりひとりを尊重し、本人の希望を聴きながら生活を組み立てていく姿勢は愛実の会にも影響を与えてくれました。先日、愛光園の創立者皿井寿子先生にお会いした時、ひかりのさとのぞみの家の住人たちが、親亡き後もひかりのさとで安心して晩年を過ごし、安心して帰天して行ったと伺いました。

愛実の会もメンバーたちが晩年まで安心して暮らせる仕組みを作り出す時期に来てしまいました。メンバーと一緒に過ごす中で、誰もが生きやすい社会とは、重度の障がい者が地域あたりまえに生活できる事にあると思ってきました。8050問題は、生き難さを抱える家族を持つ家族だけに負担を強いるのではなく、地域共同体がいかに助け合って生きていこうとしているかにかかっていると思います。障がい者の存在が問いかけるのは、さあ、一緒に助け合って生きようよ、その方が人生は豊かだよ！との事ではないでしょうか。



## 地域で暮らすこと～当事者研究の前線から～

「障がい者と教会」講演より 戸田真二

障害者×健常者、身体・知的・精神の障がい者手帳を持つ人は20人にひとりと言われています。障がい者という言葉は、普通でない特別な響きを感じます。障がいが重ければ重いほど社会的弱者・恵まれない人たち、可哀そうというイメージと共に、人としての尊厳が疎んじられてきた偏見や差別。常に与えられ、支援を受ける存在として「特別」を今も創っています。そして、もっと違和感がある言葉が健常者です。私たちは「与える・支援をする」側の者なのでしょうか？誰もが弱さを担いながら様々な苦労の人生を歩む当事者だと思うのです。障がい者である前に同じ人であることが大前提です。愛実の会では『寄り添うこと』を大切にしています。それは互いに相手を尊重し合うことであり、そこから新たな気づきが生まれています。人の字のごとく、互いに寄り添っていることに気づくのです。ノーマライゼーション（普通の暮らし）から今ではインクルーシブ（誰もが排除されない社会）へと様々な特性・個性に合わせていく世界観へと移り変わって来ています。しかし生きづらさを感じている当事者は減ることはありません。むしろ増えてはいないでしょうか？

当事者研究とは「浦河べてるの家」から生まれたもので、この研究は統合失調症の回復プログラムとして障がいや病気の当事者＝苦労の主人公が自らの弱さを情報公開して自分自身の苦労の意味やメカニズムを似た経験を持つ仲間と助け合って研究することにより、生きづらさの対処法を探り当てていく、苦労を希望にかえる自分を助けるための研究です。その効果は苦労が関心に、悩みが課題に、孤立が連帯に変わり苦労の中にこそ希望にかえる知恵が潜んでいるという逆転の発想からユニークな研究として多くの事例が発表されています。

### 《当事者研究のポイント》 誰も排除しないインクルーシブな雰囲気

1. 自己病名を自ら付ける(自己分析と弱さの情報公開)

統合失調症 ドラマチック型・明るい躁うつ笑い病・全力疾走依存あわてるタイプ等

2. 人と問題を分ける(自分自身の外在化)

リングに上がって苦労と戦う自分をリングの外から眺めることで、問題行動を起こす

〇〇さんから、〇〇という苦労を抱えている〇〇さんに変わる

立ち位置を変えることで苦労のパターン、成功のパターンが見えてくる

3. 苦労の現実をユーモアにかえる（…にもかかわらず、笑う）

即興的（偶然性）に生まれるユニークな理解やアイデアこそが“自分の助け方”的重要な発見につながる

「障がい者と教会」の関係性も、同じ人として、同じ当事者として、共に寄り添い合う相手として自分の弱さをさらけ出し、自分の苦労がみんなの苦労として互いに尊重し共有していく事で、立ち位置がかわり見え方も変わって行くように思います。生きづらさは障がいや特性、環境、人間関係の中にあり途絶えることはありませんが、その苦労と自分がうまく付き合えれば少し楽な生き方につながるように思います。当事者研究はいつでもどこでも行うことが出来ます。そして、共に地域で暮らすことの最大の課題は決して苦労がなくなることではなく、その苦労を分かち合いながら寄り添い合える相手をより多く創ることだと思うのです。



# 大地の家活動報告 11月-2月

## 遠足に行ってきました！

大地の家では、年に一度遠足活動を行っています。

普段からなるべく外出する機会を設けるように意識して取り組みを行っていますが、遠足活動は普段の外出とは意味合いが違います。

重度の障がいを持ち車いすを使うメンバーが多い中で、日常の外出では福祉車両を使っています。

しかし遠足では、なるべく公共交通機関や社会資源を使って外出することを念頭に置いて企画しています。

今回の遠足では、東映太秦映画村と京都水族館を主な目的地に設定し、新幹線やJR在来線での移動を行いました。

当日は朝早くから名古屋駅に集合となりました。

もう何年も遠足活動を行っているので新幹線移動は慣れていていますが、京都駅からの在来線は通勤通学ラッシュと重なり大きく混雑していました。

満員電車など普段の生活の中では体験できないことでもあるので、メンバーにとって良い経験になったと思います。

映画村では、目の前で迫力のあるチャンバラショーを観たり南京玉すだれの実演などの見物をしました。

食事を事前に予約し、メンバーに合わせた食形態（刻み食等）にも対応していただくことができ、福祉の進展だけでなく社会の変化なども感じ取ることができました。

その後の京都水族館では、イルカショーやペンギン・アシカの展示、大水槽などを見学しました。

新しい水族館だけあってどの展示も間近に見ることができます。

特にペンギンの展示では、巣の中の様子も車いすに乗った目線でもじっくりと見ることができました。

また、サーカスをモチーフにしたイルカショーでは、車いすの団体がステージの上からでも目立つのでしょうか、ピエロの演者さんがスタジアムまで上がって来てくれました。

ピエロを目の前で見たメンバーは驚いたり、キヨトンとしたり、一人ひとり感じ方が違いましたが、ショーだけでなく終演後も大興奮でした。

集合時間よりもっと早い時間に各家庭では出発準備が始まっていることを思うと、親御さんの大きな協力があってこそ実施できた遠足だと思います。

現地でも多くの方の協力と理解を感じることができ、今後も外出等を通じて社会参加し、障がい者の存在を社会に訴えたいと思いました。



↑ 新幹線ホームにて



↑ ちゃんばらショー



↑ お侍さんと記念写真



↑ イルカショーのピエロさん

## 恒例のクリスマス会

年末に毎年の恒例行事であるクリスマス会を行いました。

島理事長によるクリスマス礼拝に始まり、ミュージックケアの実演、アシスタントの出し物、プレゼント交換を行いました。

礼拝では、賛美歌を歌うとともに、調子を崩し当日に出席がかなわなかったメンバーの回復を皆で祈りました。

ミュージックケアの時間には、日ごろの活動をご家族に知つてもらうとともに、障がいの有無に関わらず誰でも参加でき楽しむことができるということを体感してもらえたように思います。

またアシスタントの出し物として、トーンチャイムとミュージックベルの演奏を行いました。

11月の初め頃から送迎後の時間などに練習を重ね、なんとか形になるものができたのではないかと思います。

ある程度完成したところで簡単に切り上げることもできたと思いますが、心を込めた演奏がしたいとの思いから、本番ギリギリまでしっかりと練習しました。

賛美歌にミュージックケア、アシスタントの演奏など音楽のあふれた一日となりましたが、久しぶりに大人数が集まつことでその場にいる人の顔にも笑顔があふれていたように思います。

例年はメンバーだけでなく、アシスタント・ご家族等を含めて60名位の参加がありますが、今年は40名程の参加となりました。

今年は相次いで調子を崩すメンバーがおり、長期の入院をしている人や、自宅で療養されている方もいました。

中には親御さんの調子が悪く参加を見送られた方もいました。欠席された方たちの顔を思い起こすと、少し淋しく感じました。

メンバーの生活を守っていくためには、メンバー自身だけでなく、その介護を担う家族の健康も非常に大事な要素だと改めて感じたクリスマス会でした。

来年度のクリスマス会には、より多くの人が集まれると良いなと感じています。

そして、また集まつた人々に楽しんでもらえるようなクリスマス会、出し物を考えていきたいと思います。



↑礼拝の様子



↑みんなでミュージックケア



↑トーンチャイム演奏



↑クリスマスメニュー

## 新 し い 年 度 に 向 け て

早いもので2018年度も残りわずかとなりました。新年度には新たに特別支援学校を卒業するメンバーの受け入れがあります。

これまでのメンバーと同じように個性あふれるメンバーだと思いますが、どんな関係作りができるか楽しみにしています。

来年度も大地の家は、季節感・音楽活動・メンバーに寄り添うということを念頭に置き、取り組みを行っていきたいと思います！

# 紙風船のページ

寒さの中にも春の日差しを感じる季節となりました。  
いろいろな生命が息吹く時です。今年度、紙風船は変化の多い年でした。  
これからも、メンバーとアシスタント協力し合って乗り越えていきます！

## 届け、想い。FEN-Girls

クリスマスも近くなつた12月18日。  
介護・福祉アイドル「FEN-Girls」の皆さんがあいの会にやってきました。皆さん介護、看護などのお仕事とアイドルというまさに「二足の草鞋」を履きこなす方々です。介護・福祉に対する思いを世界に発信しそれを憧れの職業にするため、福祉施設はもちろんお祭りや学園祭などでも人々とふれ合い、啓発活動を行っているグループです！

アイドルと聞き、初めメンバーは少し遠慮がちに歌やダンスを観ていたのですが、後半で皆さんと自己紹介し合ったりお互いに質問し合ったりしていく内にすっかり打ち解け、また皆さんのスッと真の通った考え方へ感化されたりよい刺激をいただけました。紙風船とのコラボのお話も考えてくださいとのことです。

実現できる日を夢見ています！



## 常滑進出！

肌寒さが残りつつも温かい日差しに恵まれた2月26日、2018年度最後のレクリエーション外出で常滑へ行ってきました。

最初に向かっためんたいパークとこなめでは、明太子を作る工程を見学したり、明太子が沢山つまつた“めんたいおにぎり”や、“めんたいパスタ”それに“めんたいソフト”等々めんたいパークならではのメニューを堪能しました！

2ヶ所目は常滑イオン。常滑ならではの焼き物が飾ってあつたり、巨大招き猫が設置されてたりと見どころが盛りだくさん！常滑をおいしく、たのしく満喫できてステキな1日になりました！



巨大招き猫の“おたふく”



めんたいおにぎり  
いただきま～～す





## 公演だより



### 【公演報告】

第243回2018年11月24日（土）ふれあい公演 「ポンタとたっくん」

第244回2019年 2月 9日（土）「障がい者と教会」愛知西地区集会 「ボーちゃん」

第245回 2月10日（日）日本フットケア学会年次学術集 「ボーちゃん」

### 連日がんばりました！～それぞれの「ボーちゃん」～

2月9、10日の両日、「ボーちゃん」の公演がありました。観てくださる方の対象が全く違い、表現などの工夫をする必要もある中、主役のボーちゃんを演じたのは紙風船を代表する役者さん2人。それぞれの持ち味を活かし、ボーちゃんのチャレンジ精神と少しとぼけたキャラクターを精一杯発揮してくれました。また、急な役者変更や紙風船紹介のインタビュー依頼など、思いがけない出来事もメンバーは見事に乗り越えることができました。お客様の温かい拍手と笑顔がそれを証明していたと思います。紙風船の目標、「心からの笑顔を広げよう！」が実現できた2日間となりました。

#### 作品紹介！



アドリブもバッチリ！



### 新たな道のり～夢づくり基金へのお願い～

2017年3月の20周年記念イベントから2年が過ぎ、紙風船のメンバーはまた新しい夢に向かって少しずつ歩み出しています。人形劇の見直しや新しい作品への取り組みも視野に入れ、日々メンバー・アシスタントで意見を出し合っています。人形の修繕や音響機器・道具類の補充等、様々な費用がかかってくると思います。少しでも夢に近づけるよう、皆様のご支援を宜しくお願い致します！



### 公演依頼募集中！



☆1公演2万～(予算につきましてはご相談に応じます)

☆各地域のイベントや学校の福祉教育など、目的に合わせたプログラムを組むことができます。

☆私たちは、紙風船の想いを多くの方々に広めていきたいと思っています。メンバーも、手紙やメール、SNSを使って宣伝活動を頑張っています。観てくださる方々が笑顔になれるような人形劇をお届けします。一緒に素敵な時間を過ごしませんか？

ホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッターで紙風船の活動の様子を日々更新中！

「人形劇団紙風船」をWebで検索！

人形劇団紙風船



## 居宅介護事業所あみ

ガイヘル=ガイドヘルパーの略、障がいをもつ方の外出を介助し、自立と積極的な社会参加を促進する仕事です。内容は通院、散歩や買い物、旅行、コンサートに行くなどの屋外での活動のサポートをします。ガイドヘルパーはホームヘルパー資格または重度訪問介護養成研修（3日間で取得可）の資格が必要となります、活躍の場はどんどん広がっています。（重度訪問介護対象者の場合）

今日はいい日だ！～ガイヘル日記 焼津編 2018.12月初旬～

### 車イス一泊旅行 電車でGO! 【1日目】

神宮前～豊橋～浜松～焼津と名鉄とJRを3回乗り換え3時間30分をかけて、車いすのメンバーさんと一緒に焼津旅行に出かけてきました。旅行の目的は、富士山を見て地元の名物海鮮丼を食べて温泉でのんびり過ごすこと。そしていろんな人とのふれあいを大切にしよう。のんびり旅なのであえて新幹線を使わず在来線で計画したのですが、乗り継ぎは予定通りにいかず駅員さんの誘導で随分と待たされました。（ひとつ前の電車に乗りたかったのに）30分遅れで焼津に着くと駅前の観光協会へ行き富士山の見えるスポットを聞きました。車がないので歩いて行けるところで・・・『30分はかかります』（せっかくなんで行ってみよう）まずは腹ごしらえしよう！焼津に来たらおいしい海鮮丼を食べたい！お目当てのお店を目指して500メートルほど続く駅前の商店街を歩いて行くと、空いているお店は3～4件だけで人通りが全くない閑散としたシャッター商店街でした。それでも12：45にお店に到着！13：30までランチタイムと下調べ済みなのでうきうきしてお店の扉を開けると、『今日はもう終わりました』の一言…。（名古屋から来たのに）周りには他の店もなく、お昼はあきらめて富士山を見に焼津漁港へ向かいました。少し薄曇りなのが心配でしたが観光協会さんのおすすめスポットへ歩くこと30分。漁港につくと釣り人数名がいるだけ…。富士山の影すら…。（なんて日だ！）帰り道にやっと見つけた小さなレストランで遅めの昼食はもどりカツオの海鮮丼でした。ふとお店の片隅に飾ってあった色紙に目が留まりました。『今日はいい日だ！』のメッセージに二人は顔を見合わ笑ってしまいました。そこから更に歩いて1時間、バリアフリーでない道のりの珍道中！やつとのことでホテルに到着。ホテルは、サービスもよくて快適…？夜は部屋に蚊が飛んでいてほぼ眠れませんでした。

【2日目】朝から嫌な予感、余裕を持って予定の1時間前に出発！焼津駅から掛川駅で途中下車。駅前に最新の車いす対応のタクシーが停まっていたのですが、なんと車イスを乗せるのに30分かかると言われ乗車拒否。その後介護タクシーで掛川つま恋温泉へ。二日目の目的は森林の湯でのんびり過ごすことでした。10：30に現地到着！さあ、施設に入ろうと思ったら、開館時間がなんと12：00～となっていて中にすら入れません…。（なんて日だ！パート2）

仕方なく、つま恋の広い山中を時間つぶしに散歩。なんと予想外時期遅れの見事な紅葉！上り下りの坂道を車いす押しながらほとばしる汗、1時間の紅葉狩りを堪能した後、温泉で汗を流し露天からの眺めは、まさにこれぞ森林浴!!『今日はいい日だ！』帰りの電車もやはり待たされて1時間遅れ…。上り下りうまくいかない人生も、うまく味わえば決して悪くないものですね。二人笑顔で初めてのガイヘルの旅は多くの優しさとふれ合いながら無事終わりました。ばちばちいこか！



愛実の会のホームページに『居宅介護事業所あみ』のページがオープンしました。  
楽しいガイヘル日記や様々な情報発信をして行きますので是非ご覧ください。  
また、登録ヘルパーの募集を随時していますのでお気軽に問い合わせください。  
携帯 090-3831-0673（戸田直通）

2019年5月14日(火)  
開場18:30 開演19:00

## 名古屋市熱田文化小劇場

■名古屋市熱田区神宮三丁目1番15号 2F

[熱田区役所・熱田図書館に併設] ■TEL 052-682-0222 FAX 052-682-0220

### 【交通アクセス】

- ・JR 東海道本線「熱田」下車 徒歩1分
- ・地下鉄名城線「神宮西」下車 2番出口より東へ徒歩5分
- ・名鉄名古屋本線「神宮前」下車 西口より北へ徒歩8分
- ・市バス「熱田区役所」下車すぐ

主催:愛実の会・名古屋ダルクチャリティー

### お申込み方法

Tel:090-1754-0104(島)または052-693-5897(愛実の会)

メール: [info@aminokai.com](mailto:info@aminokai.com) 入場料 1500円



愛実の会(重度の障がいを持つ方の地域生活サポートセンター)  
名古屋ダルク(依存症治療共同体)

# フルート、チェロとピアノの響も ドイツ、ポーランド、ロシアの息吹がここに

ベートーベン『トリオ 街の歌 op.11』  
ルツフラー『2つのラプソディ』  
サン＝サーンス『タランテラ』  
ハーン『3つの楽器のロマネスク』  
フォーレ『トリオニ短調 op.120』



古賀敦子（フルート）

ドイツ・マグデブルグ交響楽団員。平行してソリストとして、また室内楽でドイツ中心にヨーロッパ各国で活躍。CDも好評発売中。

ゲオルギー・ロマコフ（チェロ）

マグデブルグ交響楽団首席を務め、ソリストとしても世界で高評価。この夏には東京池袋の芸術劇場でオーケストラと共に演が決定。

ラドスラフ・クレック（ピアノ）

ポーランド・ビドゴシチアカデミー音楽院で教鞭を取りつつ、世界各地のオーケストラと共に演。室内楽奏者としても定評を得る。

## 苦悩を超える楽しさを共につくる

～「一期一会」の訪問教育～

南 寿樹

「入院生徒が増え、訪問の教員では足らないので、2つの病院で1回だけの授業に入ってください」

手書きで書かれた病院の地図と簡単な資料を渡され、2日連続で「一期一会」の授業をしてきた。「大変だとは思いますが、よろしくお願ひします」と言う訪問教育担当者の「大変」という言葉は、距離が遠くての大変だとばかり思っていたが、生徒の対応が大変という意味だったようだ。地元の学校に適応できないばかりでなく、家庭でも暴力が出てしまい措置入院させられている生徒。通常の授業は通用せず、生徒に拒絶されて心を病む教師も多いと聞く。でも私は楽しみだった。

二つの病院は、どちらも閉鎖病棟のある病院。閉鎖病棟とは、逃げ出せないように前後にドアがあり、片方を施錠しないと片方が解錠されない小部屋を通過するため、インターフォンで看護師を呼びだす。「ここに無理やり入院させられた生徒はどんな気持ちなのだろう」と胸が苦しくなった。

S病院の俊太（中1）は、付き添いの看護師に半分隠れるようにして「学校の先生ですか？よろしくお願ひします」と早口で言う。小太りの身体を左右に動かし足踏みをしていて、落ち着かない。前日に同室の人とトラブルがあったらしく、教室に入ってきた俊太は目を伏せ、興奮気味に細かく息をしていた。私の担当は保健体育。授業といつても病室でやる教材は、ほとんどゲームのようなものだが、私はあえて「ねえ、手品を持ってきたけど見てくれる？」と声をかける。俊太は「いいよ」と言うが、顔を上げない。「ねえ、見てて。誰にも言ってないけど私は指がとれるんだわ」と言って親指がとれる手品をする。「え？ どういうこと？」と顔を上げる。その後は100円ショップで買った手品グッズを次々に実演。最後に「これ全部、100円だよ」というと「なに、100円？」と言って大笑い。そして大きなスーパーボールをバウンドさせて箱に入るゲームとエアーホッケーのパックを使ってのボウリングを楽しむ。うまくいくと「看護師さんに言いたい」と喜んでいた。

M病院の幸司（中2）は、病室から出て来ると、表情が暗く目を伏せていた。「こんにちは」と声をかけても「うん」と言うだけだ。M病院は、古い病院。区切りのない談話室と廊下で授業することになった。談話室にある小さなテーブルを使って、俊太の時と同じように手品から始めると幸司は素直に「すげー」を連発する。そしてスーパーボールゲームやボウリングの時には「ぼくが並べるよ」「なかなか難しいね」と言って手伝う。授業の最後には「絵が好きだから将来の夢は漫画家になること」と話してくれ、私も「いつかサイン会があったら、会いに行くよ」と言って別れた。

——帰り道、中島みゆきの歌「タクシードライバー」の歌詞が浮かんできた。

「タクシードライバー苦労人と見えて、私の泣き顔見て見ぬふり。天気予報が今夜もはされた話と野球の話ばかり何度も何度も繰り返す」——障がいや病気による環境のもとで苦悩にもがく生徒たちに、時として「笑う」どころではない特有の緊張感を感じことがある。このとき正面から向き合い、「つらいね」と直接その苦しみを共有しても、どちらもしんどくなる。また外野からの励まし（でもガンバレ）だけでは心に届かない。だから私は手品やゲームや人形劇など、その苦悩を超える間接的な楽しいことを通じて共感関係を結んできた。この楽しさはダメな自分を乗り越える明日への活力を産むと信じて…

## 【N P O 愛実の会寄付者名 (順不同・敬称略) 2018年11月1日～2019年2月28日】

## ★寄付金

|           |            |             |        |       |       |
|-----------|------------|-------------|--------|-------|-------|
| 早川 教示     | 伊藤 英昭      | 山中 敦詞       | 伊藤 和子  | 比企 敦子 | 雨宮 栄一 |
| 小松 康宏     | 真木 芳子      | 加藤 久雄       | 小池 耕一  | 義井 裕子 | 楽 有紀美 |
| 西村 牧子     | 佐藤 全弘      | 大村 恵子       | 斎藤 充加  | 青本 和彦 | 河内 常男 |
| 町田 玲子     | 石田 利彦      | 津田 公子       | 見木 靖美  | 柴田 京子 | 野村 裕子 |
| 小島 真一     | 石原 艶子      | 奥山 喜正       | 楠本 真理  | 伊藤 秀章 | 宮嶋 映子 |
| 山本 茂一     | 大渕 哲也      | 阿部 健二       | 川口 耕平  | 藤井 幸子 | 伊藤 曜子 |
| 武井 陽一     | 風間 文子      | 矢澤 紗綾子      | 石田 周介  | 竹田 朋子 | 丸山 美紀 |
| 金山 正一     | 上泉 淳子      | 松本 普        | 寺田 仁計  | 細田 和民 | 桐村 剛  |
| 牧野 雅樹     | 三輪 玲子      | 西川 道子       | 塚田 正昭  | 前田 栄子 | 福島 真  |
| 田中 紘子     | 牛田 ヒサ      | 梅村 亜恵       | 森 起美恵  | 藤村 洋  | 細川 拓  |
| 野崎 典子     | 鶴崎 祥子      | 水野 享好       | 宮崎 正和  | 水戸 潔  | 柏木 實  |
| 足立 克己     | 伊藤 まり子     | 木下 久美子      | 溝口 キミ子 | 森田 猛  | 出口 尚  |
| 河村 比佐子    | 荒竹 ひろみ     | 宇田 ゆき子      | 津田 加代子 | 三浦 豪  | 崔 浅子  |
| 加藤 由美子    | 川口 いづみ     | 加藤 真規子      | 吉岡 満智子 | 近藤 洋  | 山中 高  |
| 成瀬 絵里子    | 榎本 久美江     | 佐藤 真理子      | 滝村 美智子 | 太田 栄  | 曹 誉戸  |
| 矢口 由美子    | 鈴木 あつみ     | 吉丸 あさ子      | 吉見 よね子 | 森 豊   | 堤 肇   |
| 伊藤 あつ子    | 榎原 喜代子     | 土屋 美恵子      | 持田 由美子 |       |       |
| 杉山 敏・清美   | 加藤明宏・朱美    | 菅野 明子・清川 博明 |        |       |       |
| 小田弘平(複数回) | 吉谷 尚之(複数回) | 島 しづ子(複数回)  |        |       |       |

京都みぎわキリスト教会 日本福音ルーテル復活教会 日本キリスト改革派金沢教会  
 教団)埼玉新生教会女性の会 教団)愛知守山教会女性の会 教団)豊明新生教会  
 教団)豊山教会 教団)中京教会 教団)信濃村教会 教団)西尾教会婦人会  
 教団)天白教会 教団)大野教会 教団)久ヶ原教会 教団)名古屋新生教会  
 教団)鳴海教会 教団)刈谷教会 教団)御器所教会 教団)岡崎茨坪伝道所  
 教団)豊田教会 教団)田瀬教会 教団)各務原教会 在日大韓基督教会小倉教会  
 済美高等学校宗教部 捜真女学校高等部・中等部 浜松聖書集会 南山幼稚園  
 名古屋ワイズメンズクラブ 真栄マンション木場管理組合  
 名古屋YWCA 平塚YWCA 丸岡栄光学園緑幼稚園 教団)広路教会(複数回)

## ★紙風船夢づくり

|       |       |       |        |       |        |
|-------|-------|-------|--------|-------|--------|
| 大坂 晴一 | 木村 淑江 | 宮原 祐子 | 牧野 みゆき | 森 豊   | 水島 トミ子 |
| 潮田 則行 | 一條 敬子 | 大村 恵子 | 坂野 千名美 | 竹山 徹  | 吉見 よね子 |
| 加藤 百代 | 五十嵐 靖 | 齊藤 充加 | 森永 富貴子 | 佐田 秀子 | 荒竹 ひろみ |

## ★物品寄付

宮嶋 映子 上野 嶺 水口幼稚園 有)山建商店 名古屋ワイズメンズクラブ

## 【任意団体「障がい者・友だちの会・愛実」寄付者名 (順不同・敬称略)】

教団)豊橋教会ひつじの会 在日大韓基督教会大阪教会女性の会  
 日本キリスト改革派八事教会 喫茶愛実

ご協力ありがとうございました。

## 【ボランティアでご協力いただいた方 （順不同・敬称略）】

永田 友香（紙風船） 森田 猛（紙風船） 櫻井 直人（ホームページ作成）  
名古屋ワイズメンズクラブ（ホールコンサート）  
名古屋市港区歯科医師会の皆様 ご協力ありがとうございました。

### 事務局からのお知らせ

#### \*職員異動\*

##### 【退職・アシスタント】

□ 梅田 由有（大地の家・会報担当）

2019年1月末をもちまして退職いたしました。ありがとうございました。

#### \*寄付金について\*

2018年度の目標額350万円は達成見込みとなりました。多くの方のご支援、ご協力ありがとうございました。

使途内容については

\*居宅介護事業所あみ 福祉車両購入（スズキ エブリイ）

\*アシスタントの人員の補充

\*人形劇制作等

2019年度はメンバーの地域生活の支援の構築に向け、新たな展開が始まっています。引き続き愛実の会へのご支援をよろしくお願ひ致します。

#### 【所在地・連絡先】

##### 特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホ-ムペ-ジ <http://npoaminokai.wixsite.com/aminokai>

または [愛実の会](#) [検索](#)

#### 【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 口座番号 00850-6-187490

口座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1口1,000円 何口でも結構です

◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）

◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）